

地域の特色を生かした題材で、

- ・手軽に
- ・楽しく
- ・多様な動きを

実践できる「運動あそび」の実践例

学校名 標津町立川北幼稚園（北海道）

全校幼児数 21名

（本事例に係る問合せ先）

電話番号 0153-82-3112

メールアドレス

hayashi_yoshihiko@shibetsutown.jp

1 研究のねらい

- 誰でも手軽に楽しく取り組む ⇒運動が身近なものになり、苦手なものから楽しいものになる
- 一つの遊びで多様な動きを行う⇒自分の体の力や動かし方を意識することができる
- 地域の特色を生かした題材 ⇒運動遊びに興味をもち、自ら考えることができる

2 研究の概要

子供の体力低下と運動不足の危機感から、多様な動きを身につけやすい幼児期の運動や遊び体験が最も大切であると考え、子供の体力向上と運動習慣の確立、基本的な生活習慣の改善を目指して、幼児期の運動促進に関する普及啓発事業の取り組みが始まった。

○実践プログラムの紹介

□多様な動きを経験できる遊びの工夫例

<題材名> **動物になろう！**

- 北海道標津町に生息し、かつ幼児たちの生活に身近な動物の動きを真似た運動遊び
- 動物が書かれたイラストを見て、その動物の動きを真似て動く
（さけ、あざらし、かに、野うさぎ、北きつね、ひぐま など）
- 「動物になろう」をベースにした様々な遊び
 - ・動物リレー → 往路は走ってカードを引き、カードに提示してある動物の絵を見て、復路は動物の動きを真似て歩き（走り）次の人にバトンタッチする
 - ・動物じゃんけん → 「さけ」からスタート、友達同士でじゃんけんをして勝ったら「あざらし」・・・「ひぐま」「人間」になり、人間になってじゃんけんで勝ったらゴール、負けたら「さけ」に戻る
 - ・何の動物だ？ → 自分で考えた動物の動きを発表し、何の動物か友達が考える
 - ・動物チャレンジ → 難しい動きの動物を真似るチャレンジ
（フラミンゴ・・・片足立ちでそのまま停止またはけんけん など）



さけ



あざらし



かに



のうさぎ



ひぐま

○幼児の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 幼児の顔色や声、動きに目を配り健康状態を把握する
- 2 音楽に合わせてリズム運動を行うなど準備運動やストレッチ体操の時間を十分に確保する
- 3 運動空間や障害物の確認をし、事故やけがを防ぐ

○成果の意義と今後の課題

一番のねらいであった「運動が楽しい、好きと感じる」ことについては、幼児たちの活動の様子や言動から、上記のプログラムによって達成されていたと考える。ここをスタート地点として「走る」「跳ぶ」「投げる」運動を取り入れた「楽しい運動あそび」へとつなげていくことが課題である。

○研究内容

【カムバック・サーモン】

「さけ」になって故郷の川を目指して泳ぐさけを表現する



【あざらしの大移動】

「あざらし」になって流氷の上を移動する様子を表現する



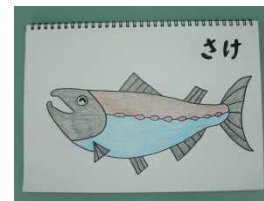
【フラフラしないぞフラミンゴ】

片足立ちでそのまま静止する難しい動きに挑戦



【動物カード】

視覚的情報の他に判断力や瞬発力も狙えるツール



基本的な動作の測定と運動習慣の分析

事業開始前後の子供の基本的な動作の獲得状況と、運動習慣の状況を分析する

<基本的な動作の測定>

- ・ 2.5m走
 - ・ 立ち幅跳び
 - ・ ボール投げ
 - ・ 両足連続跳び越し
 - ・ 体支持持続時間
 - ・ 捕球
 - ・ 往復走
- ⇒ 7つの項目について全校幼児及び地域の幼稚園、保育園で測定を実施している（継続的）。測定数値だけではなく、ビデオ撮影から体の動きの分析を行う・・・現在継続的に分析中

<運動習慣の分析>

- 地域や家庭での運動量の変化から運動習慣の獲得状況を考察する
 - ・ 健康カフェの参加率 …… 21名の園児中6名参加28.5%（昨年4名：19%）
 - ・ 親子水泳教室の参加率 …… 21名の園児中9名参加42.8%（昨年7名：33%）
 - ・ スケートクリニックへの参加 …… 21名の園児の18名参加85.7%（昨年15名71.4%）

幼稚園と地域の取り組み

幼稚園における今後の取り組みと地域の役割

- ・ 「運動あそびタイム」の充実 …… 運動あそびの時間はこれまでも設定しているが、週に1時間、基本的な動作の獲得を意識したプログラムを設定し、プログラムの充実を目指して月に1回研修を行う
- ・ 基本的な生活習慣と運動習慣の確立 …… 基本的な生活習慣の大切さを発信する資料や掲示物を作成し、保護者の意識を高める取り組みを行い、地域活動への参加を積極的に展開していく